

セッション報告

第一部

「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」

テーマ1 「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

卒業生「私が現在の進路を選んだ目的と達成状況」

テーマ2 「私の大学のここが好き」

卒業生「私の職場のここが好き」

テーマ3 「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

卒業生「私の夢とキャリアプラン：将来の姿を描こう」

第一部 作業説明

第1部 World Café

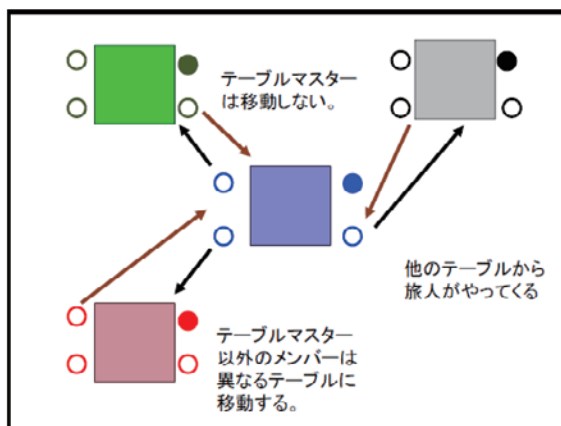
私たちの歩み！
過去、現在、そして未来

日本薬学会第3回全国学生ワークショップ



World Café とは

- ・グループワークの一つのやり方です。
- ・3～4名でグループ討論を行います。テーマごとにメンバーを入れ替えて討論を行います。これを「ラウンド」と呼びます。
- ・テーブルごとに「テーブルマスター」を決めます。テーブルマスターは固定で、司会をします。
- ・1ラウンド20～30分で行います。ラウンドごとにテーブルマスター以外は他のテーブルに散ってもらいます(旅人)。



テーブルマスターのお仕事

1. テーブルマスターから「自己紹介」し、メンバーに自己紹介をしてもらってください。
2. 第1ラウンドではそのまま指定されたテーマでの討論の司会をお願いします。
3. 第2ラウンド以降は、メンバーの「自己紹介」の次にテーブルマスターから「前のラウンドでの面白かったお話」を1分で紹介して、旅人たちにも話してもらい、そしてそのラウンドのテーマで討論を始めてください。
4. テーブルに模造紙を用意しておきます。メンバーは、ここに気づきなどを書き残して下さい。
5. 第一部の報告書(A4一枚)の担当。

模造紙には気づきや意見など書いて見て下さい。

模造紙の提出は必要ありません(落書き帳です)！



I A班-1

第一部では、「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」と題して、全国の薬学生同士の交流、そして、薬剤師として社会に飛び立つ前に自分たちの原点を振り返るという意味合いも含め、以下の3つのテーマに関して World Café 形式を用いた討論を行った。

< 第1ラウンド > 「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

第1ラウンドでは、1班4人の学生がそれぞれ薬学部に進学した目的と達成状況を A4 用紙に簡単に記入し、それをもとに討論を行った。

薬学部に進学した目的としては、身体のこと、薬のこと、その関連性を学びたいというものが主であった。それぞれ CBT と OSCE を通過しているため、薬剤師として特に必要とされる初歩の知識・技能・態度は身につけられている。しかしながら、実務実習を経験して、現場で必要とされる知識・技能・態度をそれぞれの肌で感じたためか、その達成状況は6割程度とあまり高くなかった。

それぞれの目標を常に立て、それに向かって今後も努力を積み重ねていくことで、自分の目的に近づけるだろう。

< 第2ラウンド > 「私は大学のここが好き」

第2ラウンドでは、1班4人の学生がそれぞれ自分の大学の良い点を A4 用紙に簡単に記入し、それをもとに討論を行った。

各大学から参加しているため、それぞれの大学の教育制度の特色を把握することができた。以下に各大学で取り入れられている取り組みを挙げる。

・講座の充実

薬学部生の就職先としては、薬局や病院、企業、公務員などと幅広い。各就職先には、採用試験があり、その試験の一部に TOEIC の一定以上の点数を要求することや、薬学の専門知識以外にも教養の知識や論文試験、集団討論、そして面接を課すことも珍しくない。ある大学では、これらの試験対策として、TOEIC 講座や公務員講座などといった講座が充実している。そのほかにも色彩検定講座や簿記試験講座など、様々な講座が用意されているようだ。薬学生として、そして一人の学生として自分自身の可能性を広げる助けとなるようだ。

・英語教育の充実

近年の国際化に伴い、薬学生にも英語能力が求められていることは言うまでもない。ある大学では、低回生の時からスピーキングに力を入れた講義が取り入れられ、3回生になると、専門的な論文を英語でプレゼンする授業があるようだ。低回生から英語教育に力を入れ、卒業時には自分の卒業研究を英語で発表するなど、今後の世界に通用する人材の育成に力を入れているようだ。

・他の医療系の学部との連携

医療現場ではチーム医療が当たり前になってきている。ある大学では、他の医療系の学部生（医師、看護師、栄養士等）と、模擬患者について議論を交わす講義があるそうだ。また、実務実習では、医学部の実習生と協力して一人の患者さんを担当することがあるそうで、学生のうちからチーム医療について実践を交えて学べる。学生のうちから他の医療系の学部の学生と議論を交わすことで、新たな視点に気付いたり、コミュニケーション能力を養えたりするそうだ。

・実務実習の制度

実務実習は薬局での実務実習と病院での実務実習がそれぞれおよそ2ヶ月半もうけられているが、それに加え、自分の進路の希望にあわせ、もう一度病院や薬局で実習を行うか、研究を行うか選択できるそうだ。中には、海外の薬局や病院に行くこともできるため、自分の将来を考えるうえで、とても有用であるそうだ。

これらの各大学の特色を共有することで、これからの薬学教育の発展につながるのではないかと感じた。

< 第3ラウンド > 「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

第3ラウンドでは、1班4人の学生が薬学部でのこれまでの学びを踏まえて、自分自身の将来の姿・夢をA4用紙にイラストで記入し、それをもとに討論を行った。

それぞれの大学で、5年半の学びを終え、自分の将来像について夢をふくらませた。自分の将来像としては、臨床現場で働きながら、臨床現場の実態を大学の教育現場に反映させるような薬剤師、薬局で働きながら、データを蓄積して学会発表により知識を共有させるような薬剤師、研究を行い、多くの患者さんを救えるような薬を開発する薬剤師、そして、自分の身近な人が困っているときに、何らかの形で手をさしのべることができる薬剤師など、どれもすばらしい夢であった。

どんな夢を叶えようとするにしても、夢の先には誰かのためになりたいという一途な想いがみられ、これからは、我々が社会に貢献していく立場になるのだと自覚した。

I A班-2

第一部では World Café を通して『私たちの歩み！ 過去、現在、そして未来』というテーマで話し合った。World Café はメンバーを入れ替えながら討論するグループワークの手法であり、第一ラウンドでは自己紹介の後「私が薬学部に進学した目的と達成状況」について、第2ラウンドでは「私は大学のここが好き」というテーマで話し合い、第3ラウンドでは「私の夢と進路：将来の夢を描こう」というテーマで自分の理想の将来像を絵で表現して共有した。第2、第3ラウンドの始めにはそれぞれのメンバーが前ラウンドで面白いと思った話を紹介した。

第1ラウンド「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

それぞれが薬学部に進学した目的としては

- ・新薬を作りたいかった
- ・子供の頃、薬が飲みにくかった経験から、子供が薬を飲みやすい方法を作りたいかった
(ウサギ型のゼリーにしたら喜んで飲んでくれるかも!!)
- ・医療に関わりたかった
(医療職の中で薬剤師は特に働き方を選択しやすい、医学部には入れなかった)

などが挙げられた。皆が個々の目的を持って薬学部に進学し、この目的が変わっていない人も在学中の経験から変化した人もいたが、「困っている人(患者さん)の助けになりたい」という思いは共通していた。

達成状況としては、「今はまだ進む道を決め、目的のためのスタートラインに立ったところ。学んだ知識を生かして、これから目的を達成しよう」という意見で一致した。

以上の話し合いの中で、集まったメンバーの進路が進学、企業(MR)、公務員、薬局と様々であったことから、薬学生の道はたくさんあり、薬剤師は様々な方向から人(社会)のためにはたらくことができるかと改めて感じた。

第2ラウンド「私は大学のここが好き」

本ラウンドでは

- ・学年の人数が少人数であるため、全員と友達になれる
- ・医学部が人体解剖した後の臓器などを薬学部生が触ることができるため、個人差などを実際に感じることができる
- ・チーム医療を学ぶために、大学入学時に医歯薬全学部の学生が居るようなグループが作成され、そのチームでキャンプ、病院見学、症例ディスカッションなどを行うカリキュラムがあるので、様々な医療職の友人ができ、それぞれの方向からの話を聞くことができる
- ・単科であるため結束力がある
- ・フィジカルアセスメントを学ぶためのロボット(フィジ子さん)を使った授業がある

・NPOの方とディスカッションする授業がある

などが挙げられた。それぞれの学校に特色があり、独自のカリキュラムがあることが分かった。これら特色を知ることによって、薬学部を目指している高校生もより自分の目的にあった大学を選ぶことができるため、もっと前面に出してアピールしていくべき部分だと感じた。

第3ラウンド「私の夢と進路：将来の夢を描こう」

本ラウンドではそれぞれが自分の将来を絵で表現し、

- ・実習での経験から、他の医療職と密な連携を取った在宅医療を行いたい
- ・妊婦や小児の薬物治療は、データ不足のため医師ごとにばらつきが大きいと感じたことから、これらデータを広く収集し電子共有化したい
- ・進学し、6年生薬学教育を受けたものとして薬学教育に携わりたい
- ・慢性疾患の患者さんがきちんと薬を飲めるように確認や声掛けをする、気軽に疑問を尋ねられる、地域の人々に頼られる薬剤師になりたい

など、同じ薬剤師でもそれぞれに夢があり、その夢に向かって進路を進めていることが分かった。

第一部では、それぞれ特色のある学校から様々な夢をもった学生が集まったからこそ、薬剤師が社会に貢献するためには多くの形があり、個々が努力することはもちろん、皆が協力関係を作っていくことが大切であると改めて気付くことができた。

I B班-1

第1部 World Café ―私たちの歩み！ 過去、現在、そして未来―

議論の経緯

第1ラウンド テーマ：「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

薬学部に進学した目的は、得意な化学を活かして人のためになる仕事がしたかったため、家業を継ぐため、あるいは現在の薬剤師の服薬指導に不満を感じたためなど人それぞれであった。しかし、共通して「人のために働きたい」という思いがあることという考えにまとまった。病院と薬局における実務実習において、患者さんの役に立てたと実感できる場面を何度か経験できたものの、人の役に立てるようになるには知識や経験が不足しており、今後働いていく中で達成できるという結論に至った。

第2ラウンド テーマ：「私は、大学のここが好き」

実務実習が充実している、研究と臨床がつながっているといった意見や、その他にも他学部との関わりがある、TOEICや公務員講座など専門以外の講義も充実しているといった意見も挙げられた。議論の中で、4年次以降の授業内容においては国公立大学と私立大学の違いが明確となった。国公立大学においては研究色が強く、臨床にも応用できる物事の考え方や問題解決能力を身につけられているとの意見が多くあった。一方で、私立大学ではフィジカルアセスメントの練習や選択履修できるアドバンス実務実習など、臨床で役立つ実践的な授業が多く設けられているようだった。各大学において特色があるにも関わらず、受験した時にはそのような違いがわからなかったため、自身の目的に合わせて大学を選択できるよう高校生に対してもアピールしていくことが必要なのではないかと議論も行われた。

第3ラウンド テーマ：「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

グループのメンバーの進路は、薬局、病院、公務員、大学院と様々であった。いずれの進路に進んだ場合においても、社会貢献をしていくことが必要であるとの共通の認識があった。社会貢献の内容としては、地域医療（在宅）を推進していく、研究を行い情報発信を通して成果を社会に還元していく、教育者となり次世代のよりよい薬剤師を育てるなどが挙げられた。

感想

今回、World Caféを初めて経験した。ラウンドごとに新たなメンバーと議論をすることによって、幅広い意見を吸収することができた。一人一人の話を短く簡潔にし、多くの意見を聞くことで、その後の議論がより深いものになったように思う。今回の議論で再確認した未来像を、実現できるよう努力していきたい。最後になったが、議論の円滑な進行をサポートしてくださいましたタスクフォースの先生方に心より感謝申し上げる。

概要

World Café 形式で「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」について討議を行い、自己の対する意識の再確認と他者の考えの確認を行った。第1ラウンドは、「私が薬学部に進学した目的と達成状況」、第2ラウンドは、「私は、大学のここが好き」、第3ラウンドは、「私の夢と進路：将来の姿を描こう」をテーマに各ラウンド4人程度で討議を行った。各ラウンドの始めにメンバーがそれぞれA4用紙にテーマに対する自分の意見を書(描)き、説明を行った。そこでメンバーの意見を確認後、討議に移った。

議論の経緯

○第1ラウンド：「私が薬学部に進学した目的と達成状況」【過去】

- 家業を継ぐ
- 一生の仕事
- 研究者になるため
- 好きな化学を人のために
- 薬＝有機

このテーマでは、上記の項目が目的として挙げられた。それらは現時点でほとんど達成されていない状況であるが、薬学部を卒業し、薬剤師として働いていくことで達成されていくと考えられる。また、入学時と現在では目的が変わってきているという意見もあり、入学時は目的が曖昧であったが、薬学を学ぶにつれて目標がはっきりとしたという内容であった。さらに、目的達成のための努力+αとして、『国家試験を乗り越える体力』、『英語など薬学とは別のスキル』なども必要であるという結論になった。

○第2ラウンド：「私は、大学のここが好き」【現在】

- 自然が豊か
- 鈴鹿サーキットから近い
- 駐車場が広い
- 医・歯・薬学部で合同セミナー
- 長井長義
- 伝統ある単科大学

このテーマでは、上記の項目が挙げられた。大学の環境や教育方針、歴史が好きという意見が多く見うけられた。各大学で差があることがわかった。医療系総合大学では、他学部連携が取りやすく、交流を比較的容易に行うことができるため、各学部の意見を聞ける。しかし、単科大学では、大学の枠を飛越えなければならず、交流の機会がほとんどない現状であった。それぞれの大学の特色を感じ、自分たちの大学の良さを再確認できた。

○第3ラウンド：「私の夢と進路：将来の姿を描こう」【未来】

- イラストによる討議のため省略

メンバーの将来像は、MR となり、勉強会を通して医療者同士をつなげること、他職種と連携しチーム盛り上げていくこと、スペシャリストになること、病院薬剤師として患者さんのため職務を全うしていくことであった。このテーマでは、描いた将来像に向かって努力していること、心掛けていることについて討議した。これらの夢に向かうためには、まず医療人として「なぜ?」という考え方をもち、小さな疑問にも気付かなければならないという結論に至った。また、スペシャリストとなる前に、薬剤師として基盤を作り、幅広い分野をカバーするためジェネラリストとなる必要もある。さらに、チームの一員で働くためのコミュニケーションスキル向上のため、普段からあまり話さない人と積極的に会話をしていく必要性も挙げられた。

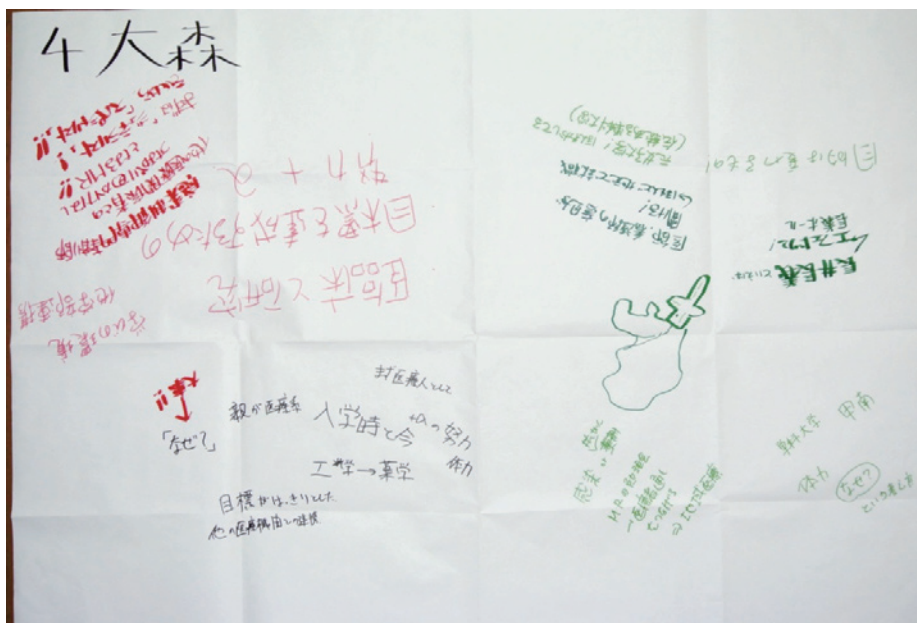


図1. プロダクト(気づきや意見)

感想

自分自身の過去・現在・未来について振り返ることで、今までの自分とこれからの自分を再確認できた。そこに様々なメンバーの意見を聞くことができる World Café 形式の討議によって、新しい視点を取り入れ、自分自身はこれからどのように行動していかなければならないかを明確に意識することができるようになった。今回、World Café を初めて体験したが、これは考えの偏りを少なくし、一人一人からの意見を細かく抽出できるメリットがあると思われるため、他の討議にも適用することでより深くより有益な意見を引き出すことができると考えられる。また、この度セッションを円滑に行えるようサポートしてくださったタスクフォースの先生方に感謝申し上げます。

I C班-1

第1部 World Cafe

テーマ1：「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

薬学部に進学した目的は、「やりがい」、「人の為になる仕事をしたい」、「家族の影響」、「給料がいい」、「安定」など人によって様々でした。しかし、薬学に興味を持ち、薬剤師として社会貢献、活躍したいという現在の想いは皆共通していました。

達成状況は、現段階で達成している人はいませんでした。達成するためには、まだ努力が必要という意見が多かったです。現在はまだ準備期間で薬剤師になってからがスタートラインという意見もありました。

テーマ2：「私は、大学のここが好き」

「他大学が近く交流がある」、「自然豊か」、「景色がいい」、「綺麗」、「海外の薬科大学に研修に行ける」などそれぞれ自分の大学の自慢出来るところを紹介しました。また、自分の大学にはなく羨ましく思う点や自分の大学だけの特色などを知ることが出来ました。

テーマ3：「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

将来の自分の姿を絵に描くということで、絵の得意・不得意で完成度に差が出ていました。絵では表現しきれなかった部分言葉で補足し、説明しました。

病院薬剤師、薬局薬剤師、大学院進学などそれぞれ進路は異なり、学ぶ環境や過ごした環境によって影響してくると感じました。夢については皆熱く語っていて、薬剤師が活躍できるフィールドは様々あるということを再確認出来ました。

I C班-2

world Cafe 形式を用いて I 班 24 名の中で小グループに分かれ、いろいろな視点からの意見を出し、それぞれのラウンドのテーマについて討論を行いました。普段の会話の雰囲気を残しつつ進めることができ、たくさん意見が聞けた様に感じました。

以下に各ラウンドでの討論をまとめます。

【第 1 ラウンド：私が薬学部に進学した目的と達成状況】

ドラマに憧れて医療関係の道に進みたいと思ったから、実家が薬局だったから、自分の経験を活かしたかったから、理系の道に進みたかったからと薬学部へ進学した目的は様々でした。薬学部で学んだことについて討論をしていると、皆共通して、実務実習が自分の考えを変えたという意見がありました。講義を聞くだけでは理解不足だったことを実際に体験し、より理解が深まった。自分が進む環境を知り、知識があるだけではいけないことが分かったなど、実務実習を体験してよかったとの意見が出ました。

そしてこれから、どのように学ぶべきなのかを考えさせられたと感じたという意見も多く出ました。達成状況は、まだまだこれから努力しなければならない状況だと皆が、思っていることがわかりました。

【第 2 ラウンド：私は大学のここが好き】

大学の特徴はそれぞれで、臨床現場を見ることができる、校舎が新しく最先端の実験機器が揃っていて生活を送りやすい、学部全体で連帯感がある、6年間担任が同じだからなんでも相談しやすい等がありました。

どの大学も先生との距離が近く、学生生活に満足しているように感じました。学ぶ環境では実験の充実や、講義内容の充実も大切ですが、先生と生徒が授業以外でいかに接するかも大切ではないかと考える意見があることがわかりました。

【第 3 ラウンド：私の夢と進路：将来の姿を描こう】

将来の職場は薬局や病院と場所は様々でしたが皆、患者さん中心の医療に参加していきたいという意見でした。

薬は患者さんを知るツールの一つだから、薬を中心に医療を考えるのではなく、患者さんとふれあいながら、状態を把握したい。海外では、薬剤師は医者と同じくらいの信頼を得ている所もある。今よりも社会から・患者さんから信頼される薬剤師になりたい。いつでも患者さんの身近な医療人でいたい。と今まで以上に積極的に医療に関わりたいという前向きな考えが多く出ました。薬剤師として、薬を通して関わる人が多い環境ですが、いつも中心にいるのは患者さんであるということを考え、患者さんが何を求めているのか、今本当に必要な処方が出ているのかを吟味できるようになりたいという考えが多くみられました。

Ⅱ A班-1

第一部は World Café により討議を行った。テーブルマスターを固定し、ⅡA・B・C 班のメンバーがバラバラになるようにグループ編成を行い、3つのラウンドについて討議を行った。

テーマ

第1ラウンド：私が薬学部に進学した目的と達成状況

第2ラウンド：私は、大学のここが好き

第3ラウンド：私の夢と進路：将来の姿を描こう

第1ラウンド

まずは自己紹介を1分程度行い、その後テーマについて議論を行った。

「私が薬学部に進学した目的と達成状況」のテーマであがった意見を次に示す。

目標

- ・ もともと持病があり薬学に関心があった。
- ・ 中学校の職場体験で薬局見学をし、薬剤師の仕事に興味を持ったから。
- ・ 薬剤師が安定しているということから志望した。
- ・ 資格ということで強みがある。
- ・ 薬の研究がしたかった。

達成目標

- ・ 今は勉強中である。
- ・ とりあえず、国試合格に向けて努力あるのみ。
- ・ 今の目標としては卒業すること。

第2ラウンド

まずは自己紹介を1分程度行い、その後前回のラウンドでの印象に残ったことを話し、次のテーマについて議論を行った。

「私は、大学のここが好き」のテーマであがった意見を次に示す。

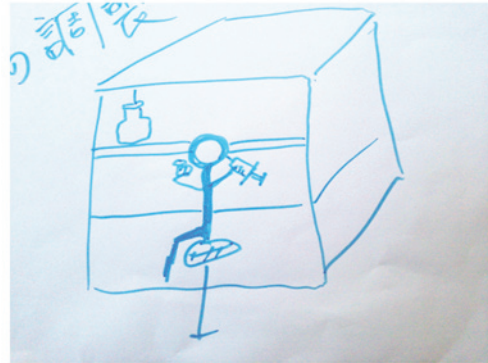
- ・ 総合大学であるので他学部との交流があること。学生だけでも2万人いる。
- ・ 変わった総合大学で学部が国際関係、経営、食品、看護、薬学と様々である。国際関係にはミャンマー人やインド人などがいるので、将来国際的な活躍をしたい人に良い環境である。
- ・ 研究施設が充実していて、NMRが8台ほどある。最新の機器を学生でも使うことができる。
- ・ いい意味で田舎であるので人柄がとてもよい。学生証でハウステンボスに入れる。

第3ラウンド

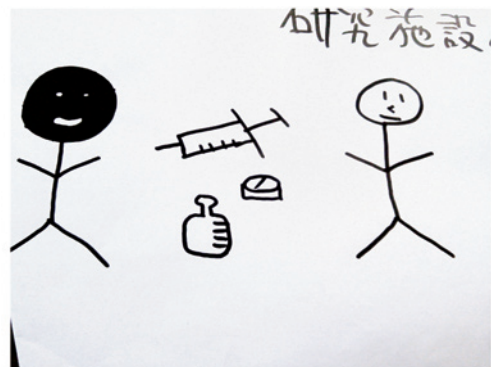
まずは自己紹介を1分程度行い、その後前回のラウンドでの印象に残ったことを話し、次のテーマについて議論を行った。

「私の夢と進路：将来の姿を描こう」のテーマで上がった絵を次に示す。

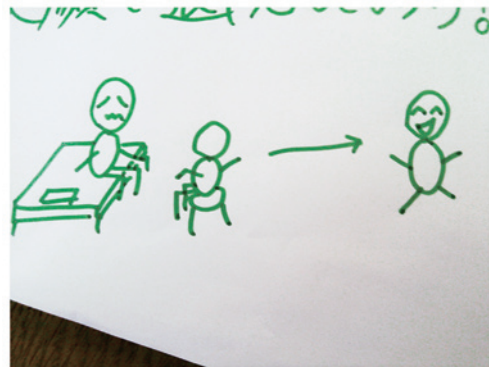
この絵は安全キャビネットでの抗がん剤の調整を意味しており、将来がん化学療法に携わって、がんの患者さんをトータルでケアしていきたいということである。さらには、がん専門薬剤師になりたいとのことであった。



この絵は黒い人が黒人を表しており、白い人が自分を表している。外国の人に投薬を行いたいとのことであり、さらには黒人だけでなく、外国の子供に投薬を行いたいとのことであった。そのために、これから英語を勉強しなければいけないとのことであった。



この絵は、患者さんの副作用や薬の飲み方を指導することを表している。薬の説明はもちろんであるが、最終的には患者さんが笑顔で退院してくれることが一番の目標であるということであった。



おわりに

今回の World Café で毎回メンバーを変えて 3 つの議題で議論したことで、自分の班のメンバーだけでなく、他の班のメンバーと意見を交換することができたので、とても交流を深めることができた。全国各地の大学から集まっているため、様々な環境があると知るとともに、それぞれ将来の目標についても意見を交換することができ、非常に有意義な時間であったと思う。次回も続けて欲しいと思う。

Ⅱ A班-2

第1部では「World Cafe」という手法を用いて、『私たちの歩み！過去、現在、そして未来』について討議した。第1ラウンド『私が薬学部に進学した目的と達成状況』、第2ラウンド『私は、大学のここが好き』というテーマで多くの人と交流をしたのち、第3ラウンド『私の夢と進路：将来の姿を描こう』について、将来の自分を絵に描いて表現をし、討論を行った。

◆ 第1ラウンド『私が薬学部に進学した目的と達成状況』

- ・人の役に立ちたいと思いこの学部にした。
- ・ワクチンを作りたい。
- ・子供のころ友人が難病でその姿が印象に残り、自分も友人のような患者さんを助けたいと思った。
- ・NPO 法人に入り、アフリカに薬を持っていきたいと思ったから。
- ・幼いころ、薬剤師が手分包をしている姿がかっこいいと思ったから。
- ・病院の薬剤師になり、ベットサイドの患者さんと触れ合いたい。

◆ 第2ラウンド『私は、大学のここが好き』

- ・薬学部だけのサークルがある。
- ・国家試験、CBT、OSCE 対策をしっかりとってくれる。
- ・PL 花火がある。
- ・SA 制度がある。

(SA 制度：5・6 回生が下級生に対して勉強を教える制度。週に1回、1時間実施し、主に勉強の仕方を教える。教えられる方も教える方も、お互いのためになる。)

- ・建物が赤レンガでできていておしゃれ。
- ・他学部との交流があるため、外国人生徒とも触れ合える。

◆ 第3ラウンド『私の夢と進路：将来の姿を描こう』

- ・CDTM
- ・予防、連携、街づくり
- ・病院薬剤師になり、患者さんが笑顔になれるような薬剤師
- ・薬剤師国家試験対策の予備校教師

第1ラウンド

討論した結果、薬学部に進学した目的で様々な夢や思いが出てきたが、共通して言えることは『人の役に立ちたい』であった。達成状況としては、実習を経験し臨床での薬剤師像を見ることができ、自分が今後何を伸ばしていけばよいかわかったという意見があった。また、将来の夢はアフリカ

に薬を持っていくという意見もあったので修行中というものがあった。

第2ラウンドでは、それぞれの大学の良さを討論したが、他学部との交流について盛り上がった。多くの大学は他学部と接する機会が少なく、また英語をもっと学びたかった、海外の医療について学びたかったという意見がでた。某大学では、留学を通じて海外の医療について学んだり、同大学の他学部と交流し話したりする機会があるという意見が出た。

第3ラウンドでは、自分の将来像について絵で表現したが、テーブル5では病院薬剤師像、予備校教師像、CDTMを行っている像、地域に根差した薬局薬剤師像が上がった。

ⅡB班-1

第Ⅰ部 World Café 『私たちの歩み～過去、現在、そして未来～』

Theme 1. 『私が薬学部に進学した目的と達成状況』

【意見】

- ・「安定している」という薬剤師へのイメージ
- ・学ぶことがわかりやすい
- ・新興国での医療に貢献したい
- ・医療に携わることで、社会へ還元したい

【議論、フリートーク】

薬学部進学を決めた時期に、明確な将来のビジョンを持っている人はあまりいないように感じたが、その中でも、薬剤師になって海外で活躍したい、という目的を持った人もおり、高い意識を持って薬学部に進学した人もいる。特に、海外の医療に携わりたい、という意見にはグループ全員で感銘を受けた。一方で、薬学科のカリキュラムもほぼ終わり、病院実習、薬局実習もこなしてきたが、まだ実際の実務レベルには達していないとみな感じていた。卒業後に医療現場で即戦力としてはたらくるために、病院や薬局でのさらなる実習や、卒後研修などがあればよい、などの意見もあったが、今後どのような“薬剤師”としてはたらくのか個人個人で変わってくるので、それぞれに応じたスキルを身につける努力をすることが必要なのではないかという意見があがった。

Theme 2. 『私は、大学のここが好き』

【意見】

- ・教員との距離が近く、先生と親しみやすい
- ・旅行やレクリエーションなど、研究室のイベントが多い
- ・企業、行政、病院、大学など、さまざまな進路に進む同期がおり、横のつながりが充実している

【議論、フリートーク】

薬学部の1学年の規模も大学ごとに異なっており、研究室の規模も所属する教室によってさまざまだった。ただ、研究室配属の後には、研究室ごとの動きになりがちであるが、その中でも研究室旅行やスポーツ大会、各種レクリエーションなどが多くの大学でおこなわれており、楽しむ企画が充実しているようだった。また、研究室単位になることで、ひとつのコミュニティの構成人数が少なくなるがために先生方との距離も近くなるようだった。距離が近くなることで、ディスカッションがしやすくなったり、研究以外の相談をしやすくなったりと、メリットが多いようだった。

しかしながら、構成人数の少ないコミュニティに所属しがちになるので、研究室や学部以外の人と関わる機会を持てる大学もあるようだった。中でも、上下の学年と合わせて、合計3学年で1000人規模の懇親会がある大学もあり、人と人のつながりを大切にすることの大切さや、懇親会

などは全員一致であったほうがよいという意見だった。

Theme 3. 『私の夢と進路：将来の姿を描こう』

【意見】

- ・ 地元に戻り、誰でも入りやすい薬局を経営する
- ・ 救急認定薬剤師として、救急の最前線で薬剤師として医療に携わる
- ・ 薬に責任を持つものとして、患者さんを、その家族を、社会を幸せにする
- ・ 企業に勤め、数年後や数十年後、教育者として、後世の優秀な人材を育てたい

【議論、フリートーク】

現在、認定薬剤師が数多く存在するが、その中でも救急認定薬剤師としてはたらき、より直接的に命に関わりたいという意見があった。明確な目標を持ってそれを目指していく人がいる一方で、カフェのような、入りやすい薬局に勤めたいという意見も出た。ワークショップ第2部以降でも議論に出ることだが、確かに今現在の薬局はあくまで“病気の人が薬を買いに行くところ”というイメージがある。健康に関して、慢性的に服用している薬に関して、薬局にいる薬剤師が、もっと話しやすい、身近な存在になることがとても大切になるのではないかと。また、全員に共通していたのは、自分自身が薬剤師として活躍するだけでなく、将来の薬剤師を育てたいという想いを持っていたということだ。6年制3期生ということもあり、実務実習やそれ以外の教育をする人達は6年制出身ではなく、6年制卒業生である私たちが将来の6年制薬学生を教育することで、薬剤師教育の向上や、その先にある医療の質の向上につながるのではないかと話し合いをした。自分の将来のビジョンをはっきりと持っている人ばかりではないが、患者さんや社会、他者のことを配慮した意見が多かったといえる。

【総括】

Theme 1 から Theme 3 までを通して、最初薬学部を目指したきっかけ、進学したきっかけをはっきりと持っていなくても、6年制の教育を5年半受けたことで、将来の夢や姿を持つことができていく人がほとんどであり、薬学部での6年間に於ける自分の変化をみな感じ取ることができた。それは大学での教育や病院や薬局での実習、研究室での研究生活によるものが大きかった。しかしながら、卒業発表の時期が早いところだと夏休み前、遅いところだと12月頃であることや、大学での医療機器の講習の有無など、大学によって独自のカリキュラムや実習制度があり、異なる大学間で情報を共有することができた一方で全員その違いに驚いていた。

今回このWSの開催にあたり、指導して下さったタスクフォースの先生方、1期生、2期生の先輩方に厚くお礼申し上げます。

Ⅱ B班-2

<第 1 部 World Café：私たちの歩み！過去、現在、そして未来>

【方法】

World Café 形式を用いた。1 ラウンド 20 分とし、3 ラウンドを行った。

第 1 ラウンドテーマ

「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

【議論の経緯】

まず各々の意見を出し合ったところ、親が看護師で医療関係者に興味を持ったから、自分の学力レベルに見合っていたから、免許が取得でき安定だから、何となく、といったような意見が出た。医療従事者の中でもなぜ薬剤師を選択したかに関しては、血を見るのが苦手だからという声も上がった。また、何となくという答えが複数あったが、その背景には困っている人の役に立つことが出来る職業の一つとして薬剤師を選択している経緯が見られた。議論を進めるうちに、薬剤師の中でそれぞれの勤務先を選んだ理由へと話が展開していった。病院を選んだ理由としては、勉強がしたい、他職種とチーム医療を行いたい、カルテが見たい、服薬指導に時間がかけられる等の意見が上がった。薬局を選んだ理由には、病院より敷居が低くたくさんのケースを発見出来る、健康な方の相談も受けられるなどといったものがあつた。達成状況としては、免許の取得、実際の勤務での内容が目的となっていることが多く、3 月に国家試験を習得するところから達成へ向けたスタートとなるだろうという意見で一致した。

【プロダクト】

- ・親と専門的な話
- ・自分のレベルが妥当、免許
- ・血が苦手
- ・安定
- ・なんとなく→困ってる人を助けたい
- ・周りの人の薬の相談に乗りたい
- ・病院より、薬局の方が敷居が低い→ケース発見が多くなる、上に上がれる、調剤薬局からの医療
- ・薬局→健康な人も来る
- ・病院は、見れる時間が短い→見たいものが見れない
- ・病院→勉強、医療スタッフとの関わり、カルテ見れる、指導時間がかけられる（好きな時に）
- ・薬局→病院で患者さんを看るのはつらい・・・
- ・経営⇔熱意
- ・達成状況は3月にわかる？！

第 2 ラウンドテーマ

「私は、大学のここが好き」

【議論の経緯】

全国各地から学生が集結していたため、たくさんの意見が出た。地方の大学在学者からは、自然が多く、生徒も少人数で繋がりが強くのどかな雰囲気であるという声が聞かれ、また都市部の大規模な大学在学者は、各業界に卒業生がいるため、就職活動の際や就職後などに心強いこと等をアピールポイントとしていた。さらに学生証を提示すれば近隣のアミューズメントパークに無料で入場できる、地域の祭り等に学部として参加する、先輩が後輩を教える SA 制度がある等といった、その地域ならではの特色や、学校独自の活動を‘売り’として考えている学生も多かった。

【プロダクト】

- ・ 田舎→のどか
- ・ 先輩が多い、歴史がある
- ・ 200 人までは仲良くなれる
- ・ いろんな人と絡める
- ・ SA 制度
- ・ 狭い→薬学部内の上下のつながり強し！

第 3 ラウンドテーマ

「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

【議論の経緯】

それぞれ図式化したものをクイズ形式でグループ全員に当ててもらい、その後本人が説明を行った。公務員志望である学生は、薬剤師・行政・研究という 3 つの場面を描き、公務員がすべてに関わることのできる職業であることを表していた。また、薬局に就職する学生は、一般の方々が気軽に薬局に入っていく場面を書くことで、地域住民にとって敷居が低く、健康な方でもスーパーマーケットのような感覚でついうっかり入ってしまうような薬局にしたいという夢を表現していた。世界地図と人々を対比させた図を描いた学生は、国際的な場面で働くために、まずは身近な地域に目を向けて現状を把握した上で、海外での医療に携わりたいという夢を持っていた。

【プロダクト】

- ・ 公務員→薬剤師、行政、研究
- ・ うっかり入れる薬局
- ・ 国際的→地域的、コミュニティデザイン

Ⅱ C班-1

第1ラウンド 『私が薬学部に進学した目的と達成状況』

最初に行った他己紹介に付け加えるような形で、簡単に自己紹介を行った後、テーマについて箇条書きで書いた。そして、テーブルマスターから順番に書いた内容を発表した。発表した内容は以下の通りである。

【目的】

- 薬でヒトを助けたい。
- 人の役に立てる薬剤師に…。
- なんとなく（薬学部が）カッコいいと思った。
- 薬による副作用を経験した時、医師の説明が納得のいくものではなかった。そこで、同じような経験をした人に、きちんとした理由を話せる人になりたい。その為に、コミュニケーション能力や共感力を身につけたいと思った。
- 有機化学が好きであり、その分野を多く学びたい。
- 恋愛をしたい（理系学部の中で、学生の男女比率が比較的半々である）。
- 薬に関する研究をしたい。

【達成状況】

- 達成できていない。しかし、達成に向けた努力をしている。

この中で、副作用の経験をしたということに詳しく聞いた。

副作用による健康被害を受けたときは、医師に、「なぜ起こったかわからない。起こったものは仕方がない。」と、到底納得できる説明ではなかったらしい。しかし、薬剤師はきちんと説明してくれた。そこで、根拠のある説明を患者さんにしっかり話せる薬剤師になりたいと思ったそうである。この内容について、実際に健康被害にあった人に出会ったことがなく、班内が驚いた様子であった。ここから、根拠のある説明をすることは、患者さんを安心させる為にも必要であるという考えを共有することが出来た。

次に、患者さんに説明する際に、必ず必要とされるコミュニケーション能力をどのように身につけるのかという議論になった。

卒業研究で他学部の人にアンケートを実施する際、他学部の代表者をお願いにいく時に、初対面の人にどのように接したら快く受けもらえるのか、自分が言われたときに置き換えて考えるようにした。そして、そのアンケート結果を学会で発表した時に、参加されていた薬剤師さんに興味を持って頂いて、病院等でもアンケートを実施出来るようになった。このように自分から行動することで、どんどん人のつながりが出来ていき、自然とコミュニケーション能力を身につけられたという体験談が出た。これについて、まず他学部の学生等、同じ学生同士で交流すること

がやりやすいだろう、また、ここでコミュニケーション能力を身につければ、礼儀作法をプラスすることで目上の方とのコミュニケーションもうまくとれるだろうという意見が出た。

これらの意見から、人を助ける為にもコミュニケーション能力が必要であるという認識を改めて持つことが出来た。

次に、研究をしたいという目的について議論した。『薬剤師になる』＝『病院、薬局の薬剤師になる』と捉えがちであるが、そうではない薬剤師もいるのではないかという意見が出た。もっと基礎的なところにも目を向ける必要があるという意見も出た。ここから、進学した目的について達成出来ていないのは、まだ現場に出ていないというのものもあるが、基礎の内容の関連づけが十分に出来ていないこともあるという考えを発表した人が出た。

最後に、基礎の勉強もしっかり頑張ろうという意識をつけ、第1ラウンドを終了した。

第2ラウンド 『私は、大学のここが好き』

第1ラウンドと同様に、自己紹介の後、箇条書きでテーマについて書いた。その後、テーブルマスターから順番に書いた内容を発表した。発表した内容は以下の通りである。

- 教員との距離が近く、気軽に相談できるところ。
- 大学内にあるカフェのクレープが美味しいところ。
- 学生同士が仲良く、親しみやすいところ（人間性がよい）。
- 総合大学であるので、社会で豊富な人脈を誇っているところ。
- 大学付属病院があるところ。
- 国家試験対策をしっかり行ってくれるところ。

まず、『教員との距離が短い』ことについて議論した。教員との距離が短いと何でも悩んでいることを相談できるので、自分を追いつめるといった精神的なダメージを受けにくく、安心して大学生活を起ることが出来るという意見が出た。さらに、距離が短いとお茶やお菓子を持って研究室を訪ねられ、自然とコミュニケーション能力を身につけることが出来るという意見が出た。それに対し、距離が短すぎると教員が友達のような存在になってしまい、目上の方への対応がうまく出来なくなってしまうという考えも出た。そこで、適度な距離感をもち、適切な態度で接することが大切だという結論に至った。

学生同士の仲が特にいい大学は、教員との距離が短いところが多いという印象を受けた。やはり、先程あがったコミュニケーション能力が身に付いているのか、あるいは地域性が関与しているかもしれないという意見が出た。そこから少しテーマとは離れたが、お互いの地元自慢をしかけた。

次に、国家試験対策が話題となった。既に5月頃から国家試験対策の講義が始まっているところもあれば、まだ取り組んでいないところもあった。しかし秋頃から、このグループ内の大学では国家試験対策が行われる。ある大学では卒業試験が5回もあるところもあり、大変そうであっ

た。ここでは、国家試験に受かって初めて薬剤師として社会に出られるので、合格しないと意味がない。故に、しっかり勉強を頑張ろうとお互い意識を高め合った。

第3ラウンド 『私の夢と進路：将来の姿を描こう』

前の2ラウンドと同様に自己紹介等をした後、将来の姿の絵を描いた。その後、テーブルマスターを中心に発表した。それぞれの将来の姿を以下に示す。

- ・ 薬剤師の職域を自分自身で広げ、病院内で活躍している。
- ・ メンタル面も支える薬剤師になっている。
- ・ 創薬の研究をしている。
- ・ 患者さんと医療者全員がしっかりつながっている環境を作り、そこで薬剤師の役割をしっかり果たしている。

病院薬剤師は調剤のみでなく、病棟へ行き、患者さんに服薬指導をすることが現在では当たり前となっている。しかし、それだけではまだ足りないのではないかという意見が出た。医師、看護師等とさらに連携し、患者さんの情報をより深いところまで共有することで、一段上をいく薬物治療を行うことが出来ると班内全員が思っていた。その為には、薬剤師自身をもっと志を高くして、成長していかなければならないという結論に達した。

薬局では、患者さんが相談してくることも多々あるはずである。ここで、薬のことだけを聞くのではなく、患者さんの日頃の悩み等を聞いてあげることで、患者さんの心の面もサポート出来るという意見が出た。これにも全員がそうであるべきだと共感した。

これらのことは全て患者さんと医療者がしっかりとつながっていることで実現出来るものである。薬剤師からもみんながつながるように行動して行きたいと将来に向けた思いを共有した。

薬剤師というのは、患者さんと直接接するだけではなく、間接的に接することもある。その一つが実験をして、薬を創り出す研究者である。これも大切なことであり、基礎系の勉強をおろそかには出来ないという意見が出て、みんな基礎系はおろそかにしがちであるという認識を改めてもち、これからはしっかりと基礎の勉強もしようという結論に至った。

最後に、いかにモチベーションを高く持つかが、薬剤師の地位向上につながるという考えを共有し、一生懸命頑張ろうと誓い合った。

Ⅱ C班-2

◆第一ラウンド「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

- ・医療に携わりたいが、血を見るのが苦手であったため薬学部へ
- ・家族や身近な人に薬のことを教えてあげたい！
- ・なんとなく入ったが薬学を学んでみて現在は面白いと思っている

上記のようなことが挙げられた。特に2つ目に示した内容に関して、「家族(特に祖父・祖母)が多くの薬を服用していることから薬のことを教えてあげたいと思った。薬の質問を家族等から受けることにより周囲の人々の薬に対する意識も変えたい。」と話す学生がいた。

◆第二ラウンド「私は、大学のここが好き」

- ・年に1度パフェコンテストが開催される場所
- ・自然が豊かなところ
- ・医療系他学部が多数あるところ
- ・キャンパスが移転して校舎が綺麗であるところ

以上のことが挙げられた。特に他学部がある大学に関しては他学部との交流講義があり今求められているチーム医療に対応したカリキュラム編成となっていた。他にも自然が豊かな環境にキャンパスがある大学が多いことが判明した。大学のカリキュラムについて情報交換をしたところ基礎系科目と実務系科目の先生の比率が大学により異なり、近年実務系の問題が増加する国家試験への対応が不十分ではないかという意見も挙げられた。また薬学部の在籍人数も大学により異なり、少人数・大人数それぞれのメリット・デメリットも挙げられた。

◆第三ラウンド「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

- ・CRCとして働く
- ・モニターとして働く
- ・幸せな家庭を築く
- ・進路をどうすべきか迷っている

上記のことを各々が絵を用いて説明した。Ⅱ-3テーブルでは薬剤師としての進路でない人が半数程であったが、薬学部で学んだ知識を十分に発揮できる進路を選んでおり、薬学を学んでも将来多くの選択肢があることが分かった。

ⅢA班-1

<私たちの歩み！過去、現在、そして未来（World Caféによるプロダクト）>

第1部はWorld Caféという形式でのグループワークとなった。World Caféとは、喫煙コーナーやカフェのようにリラックスした状態でのコミュニケーションを意図的に実現する仕組みとなっている。特に参加者が短時間に多くの意見に触れられることが利点となる。また、互いの意見を聞き共有することを目標とするため何かを最終決定することがないことも特徴である。今回は6つの島を作り、それぞれにテーブルマスターを一人ずつ配置した。その他の参加者は「旅人」となり各ラウンドで島を移動した。さらに、各島には模造紙がおかれ「旅人」が自由に書き込みし、次ラウンドでの会話のきっかけとするようにした。

第1ラウンド

「私が薬学部に進学した目的と達成状況」というテーマで進行した。私たちの島では、高校時代は漠然とした理由で大学を選択した参加者が多かったが、在学中に何らかのきっかけ（先輩との出会いや研究室での活動など）で新たな目標が立ったという発言が目立った。達成状況については、おおむね良いという参加者が多かったが、卒後も継続して目標を持ち続けたいという発言を受け皆が共感するという流れとなった。

第2ラウンド

「私は、大学のここが好き」というテーマで進行した。テーマを話す前に前ラウンドで印象に残った内容を紹介したが、面白い話が多く第1ラウンドよりも早く皆がうちとけた様に思えた。テーマ内容としては、大学の立地や先生の面倒みの良さなど多くあったが、特に時間を割いたのは、総合大学と単科大学の違いであった。ある総合大学では実務実習中に医薬系の学生が合同で実習を行うことなど、他学部との交流が多いことが話題となり、単科大学も、そのような機会があるといいといった発言が多かった。

第3ラウンド

「私の夢と進路：将来の姿を描こう」というテーマで進行した。今ラウンドでは、文字ではなく、絵でそれを表すこととなった。チーム医療やセルフメディケーションに貢献したいなど様々な絵が飛び出したが、共通していたことは、多くの絵に患者さんが描かれていたことであった。現状では薬剤師の患者さんからの認知度は医師・看護師に対すると低く、それを自分たちの世代で変えたいと考える参加者が多かった。

上記の流れで第1部は進行した。ほとんどの参加者が初対面であったが、World Café形式をとったことで、とてもよい雰囲気でき会話ができ参加者の満足感が高かったように思えた。また、その後のSGDや懇親会でもWorld Caféの話題が出るなど、その後のプロダクトの進行にも良い影響を与えたと思う。

ⅢA班-2

私たちの歩み！過去、現在、そして未来

第1部はワールドカフェ形式でグループワークを行った。テーブルごとにテーブルマスターを配置・固定し、テーブルマスター以外の人々が旅人となり、ラウンドごとに異なるメンバー3～4人でグループ討論を行った。

Ⅲ-1班の討論における各ラウンドについて以下に示す。

第1ラウンドメニュー

テーマ1 「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

- ・患者さんと近い薬剤師になる！病院に就職するため
- ・幼少期から薬を飲む機会が多く、薬ってなんぞや？という興味を持つようになり、その疑問を解くため
- ・薬剤師とは幅広い職業なのではと考えたため
- ・「国家資格」を取得したい！女性であっても自立できるようになるため

達成状況について、現段階で「薬とは何か」という疑問は6年間の学習で大分解決できており、それ以外の目的では達成に向かって着実に近づきつつあるという状況であった。ここでは、「患者さんと近い薬剤師」という発表から、実務実習経験について特に話題が発展した。実習時、レストレスレッグス症候群に悩む患者さんの処方変更を医師へ提案したところ、薬剤変更後に症状が寛解し、患者さんから感謝の言葉を頂いたというエピソードがあった。現場において実習生という立場であったが、薬物治療に携わる一員として、しっかりと力を発揮できている。

第1ラウンドでは、薬学部に進学したきっかけから現在までの経験を振り返り、お互いの過去を知ることができた。

第2ラウンドメニュー

テーマ2 「私は、大学のここが好き」

- ・入試の日程が中期日程という特徴があり、前期後期で他学部を受験した人も中期日程で薬学部へ入学してくる。そのため、全国から様々な価値観の人が集まっており、日常が刺激的である。
- ・広いキャンパスで勉強に励むことができる。
- ・医療系の学部が集まっており、流行に敏感で明るくにぎやかである。部活に力を入れることができる。
- ・単科大学なので、先輩後輩同期みんな仲が良い。薬物療法の専門家を全学一丸となって養成するという一体感がある。

第2ラウンドでは、他の大学を知ることによって、自身の大学の良さや特色を再認識した。そ

それぞれの地域性、集まる学生の雰囲気による違いが大きく、6年間過ごしてきた環境が個人に与える影響は大きい。

大学によっては、医学部や看護学部の学生などと合同で症例検討を行う講義を積極的に取り入れているところがある。医師や看護師の治療に対する切り口は、薬剤師とはまた異なっており、チーム医療の重要性が叫ばれる中で、学生時代から他の職種との交流を図りお互いの関わりを理解することは非常に意義深いことであると考えた。

第3ラウンドメニュー

テーマ3 「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

- ・自分の勤める薬局を、行列のできる薬局にする！患者さんに選んでもらえる薬局、あるいは調剤してほしい、投薬してほしいと思ってもらえる薬剤師になりたい。予防医療に力を入れる。
- ・地元の高齢化に伴い、老老介護の実態を肌で感じている。薬物を通してのケアはもちろん、患者さんの生活をトータルサポートできる薬剤師になる。
- ・薬剤師が接する患者さんは年齢も状況も多様な人たちである。ただ処方せんの調剤をこなすのではなく、目の前の患者さんが何を求めているのか、相手の立場を考え行動できる薬剤師になりたい。

第3ラウンドのメンバーは、全員調剤薬局での勤務を予定しており、今後日本の高齢化が進む中で、調剤薬局の在り方について考えていく必要があるという討論がなされた。中でも在宅医療での薬剤師業務拡大は急務であり、特に医療過疎地で調剤薬局が果たす役割は大きい。また、高齢化に加えて社会保障費が膨らんでいる国の背景は無視できず、生活習慣の是正による医療費削減など、予防医療の観点が重要となってくるという意見が挙げられた。そこで、かかりつけ薬局・薬剤師として地域に身近な存在となり、人々の健康増進の一端を担っていきたいと考えた。

以上のような医療の現状を踏まえて、これからの薬剤師を取り巻く環境変化に伴い、ニーズに応えられる薬剤師にならなければならないと感じている。

第1部のセッションでは、十人十色の多様な意見に触れることで、そこから新たな発見やこれまでにない気づきが生まれた。第2部、第3部へとつながる有意義な意見交換ができたと思う。

ⅢB班-1

●第一ラウンド：「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

もともと、私自身が認める私の欠点として、コミュニケーションが苦手、というものがある。趣味が合うとかそういう相手ならともかく、世代が違ったり、共通する話題がないとか、そういったケースでのコミュニケーションは本当にとりづらい。口もそんなによいものではないので、営業や接客が中心となる業種への就職は避けたいと常日頃から考えていた。

辿り着いた結論は、“資格を取得する”ことであった。まあ、資格さえあればそうそう食いつぶされることはないだろう、という考えもある。そこで、医療系に目を向け、血を見るのが苦手な者として薬剤師を選んだ。

——と、後ろ向き後ろ向きに選んでいった結果薬剤師になろうとしたのが自分だったが、「資格」に魅力を感じてこの道を選んだのは、どうやら少なくないようだ。

このテーブルを訪ねた一人は、薬剤師を志した理由に「本音と建前がある」と言った。建前としては病院で働きたいとして、本音は免許があれば食いつぶされることはないだろう、ということだった。

では、薬学部に来た目的は達成されているか？

薬学部薬学科の最終目標はある意味国家試験に合格して薬剤師免許を取得することなので、その点はこれからである。なので、ここでは「薬剤師に対してイメージが変わったか」という切り口で話を聞いた。

このテーブルを訪れた二人ともが、「最初は薬剤師を面白い職とは捉えていなかった」と答えた。しかし、実務実習や、大学における早期実習で意識が変わり、「自分の知識を役立てたい」「人と喋るのが楽しい」というように、薬剤師に対して前向きなイメージを持つようになった、とのことだった。特に、生の現場を体験することでイメージが明確になり、その後の学習にはずみがついた、という意見が印象的だった。(この話題から、一人はテーブルに「生」と大書し、これが残りふたつのラウンドでも話題に取り上げられることがあった)

●第二ラウンド：「わたしの大学のココが好き」

第一ラウンドの二人が去り、第二ラウンドになって新たに二人が訪れた。

私自身が遅れたので、自己紹介もほどほどに、テーマについて話すことになった。

——大学のどこが好きか。案外と難しい問題だった。

長崎大学の周辺は、住むには便利な場所である。コンビニが林立し、路面電車が近場にあり、スーパーマーケットも近い。強いて言うなら娯楽が少ないが、その程度である。そしてさらに言えば、わたしはその程度にしか大学に思い入れを持っていなかった。

他のふたりは、どちらも「自然に囲まれた大学」に思い入れを持っているようだった。ひっそりとしていて、静かであり、のどかである。ゆっくりできる。

そう言ったことを話している間に、時間が尽きた。

(その他の話題)

標準語と方言の違い：言葉がご当地の方言で訛っていると、話を聞いて貰いやすい？ 標準語は冷たく感じる？

海外の薬学教育に興味がある

香川人のうどんに対する見方は他と異なる

●第三ラウンド：「私の夢と進路」

今回は、三人訪れた。

絵は苦手なので、私は棒人間が和やかに談笑している絵を描いた。高齢者の多い地元で働くことを見据え、高齢者の方々と上手くコミュニケーションを取れるよう努力したい、という思いを込めての筆だった。

他の皆はどなたも絵が上手い。嫉妬しそうだった。

ある一人は、「自分から発言する進んだ薬剤師」を目指し、活発に発言する絵を描いた。薬剤師のイメージを変えたい、という明確な目標のある絵だった。

ある一人は、自分がやりたいことを見出したいとして、臨床と研究で揺れる自分の絵を描いた。体験する中でイメージが固まり、研究でバイオマーカーを発見する事も、医療への貢献のひとつの形だと考えるようになったとのことだった。

もう一人は、PMDAで働く自分の将来図を描いた。今でも、メディナビが届くとひやりとするそう。

最終的に、大学院に行く六年生が増えたら面白いのではないか、という話題になった。今はまだ手探り状態だが、研究の面白さや大学院に行くメリットの提示など課題はあるが、今後に期待したいとして話は終わった。

(その他の話題)

電子カルテは現状スカスカで役に立たない

臨床と研究の橋渡しとなるトランスレーショナル・リサーチ

現場で求められることと大学で学んでいることにギャップがある

ⅢB班-2

今回、「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」というプロダクトで、World Café 方式でグループワークを行った。

まず、第一ラウンドでは、「私が薬学部に進学した目的と達成状況」についてであった。A4 用紙に簡単なキーワードで記入し、自己紹介を交えながら行った。出されたキーワードは、

- ・実家の薬局を継ぐつもりだったが辞めた
- ・つながり
- ・資格が欲しかった。取得のために勉強中。
- ・縁あって薬学部。いきなり上京物語。レギュラトリー・サイエンス

といったものであった。順番に話を伺っていくうちに、「実家の薬局を継ぐのをやめた」というキーワードから、薬剤師が不足していることで日々の業務に追われ、在宅医療をしたくてもできないのではないかという話があった。グループ4人中、地方出身者が3人ということもあり、「地域医療の難しさ」という話になっていった。これからの高齢化社会にあたり、地域医療・在宅医療に従事していきたいが、地方に帰り仕事をするとすると、薬剤師不足から、薬剤師として満足していく地域医療・在宅医療を提供できないのではないだろうか？また、地方に帰らず、東京で仕事をすると、地元で貢献できなくなるのではないだろうか？との意見が出た。

次に、第二ラウンドでは、「私は、大学のここが好き」についてであった。A4 用紙に簡単なキーワードで記入し、自己紹介を交えながら行った。出されたキーワードは、

- ・「縦」とのつながり。先輩→自分→後輩
- ・学生自身で作っていきける
- ・国家試験対策
- ・アットホーム

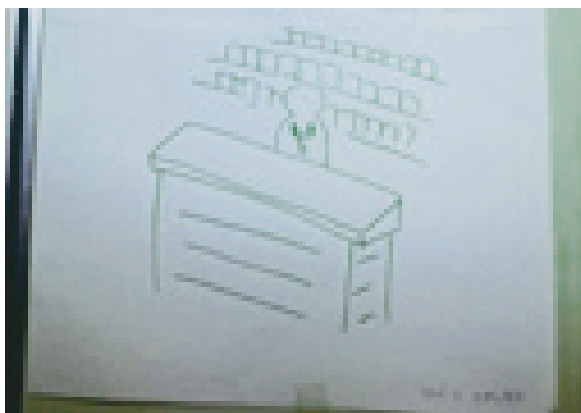
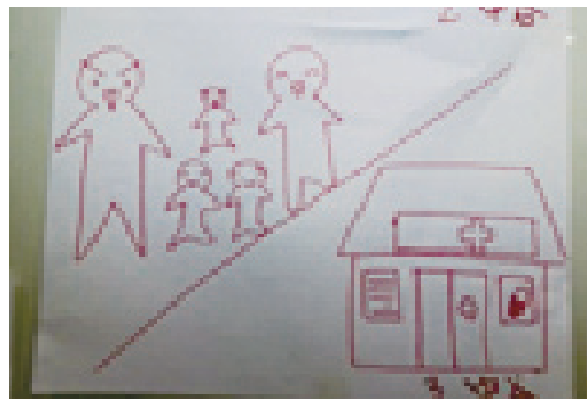
といったものであった。順番に話を伺っているうちに、4人中3人が新設私立大学であったことから、国家試験対策、卒業試験の話になった。各大学で行われている、国家試験模試の回数、卒業試験の形式・回数、予備校の講習会などの各大学、様々な対策が行われていることが分かった。

最後に、第三ラウンドでは、「私の夢と進路：将来の姿を描こう」についてであった。A4 用紙に将来の自分の姿をイラストで記入し、自己紹介を交えながら行った。出されたイラストの内容は、

- ・結婚して家庭を築き、薬剤師として働いている姿
- ・小児医療に特化した薬剤師として働いている姿
- ・OTCに特化した薬剤師として働いている薬剤師の姿
- ・薬剤師というツールを使い、様々な人々を支えている姿

というものであった。順番に話を伺っていくと、薬剤師は薬のスペシャリストであり、薬に関する知識の拡充は不可欠であるが、何かに特化した知識を構築することも大切なことであり、その知識、スキルを生かして、薬剤師というツールを使い社会貢献してかなければいけない、という

話が展開された。



ⅢC班-1

『私たちの歩み！過去、現在、そして未来』

第一部では、World café というグループ討議形式を用い、Ⅲチーム全体を3～4人のグループに分け、ラウンドごとにテーマについてそれぞれ異なるメンバーで意見交換を行った。

《テーマ》

- ・第1ラウンド…「私が薬学部に進学した目的と達成状況」
- ・第2ラウンド…「私は、大学のここが好き」
- ・第3ラウンド…「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

第1、2ラウンドについてはキーワードを書き、その内容について話し合った。第3ラウンドに関しては絵を書き、どのような内容であるかを当ててもらい、絵を書いた本人による説明の後、意見交換を行った。

第1ラウンド「私が薬学部に進学した目的と達成状況」

【目的】

- ・喘息の治療がきっかけで、薬について興味を持ち、病気で苦しむ人を助けたい
- ・身内に医療関係者が多く、医療に従事したいと思った
- ・薬剤師の資格が取りたい
- ・家族が薬剤師で、小さい時に話を聞いて興味を持った

【達成状況】

医療従事者として働くということがどういうことなのか、実務実習などを通して実感した。しかし、目的を達成するためには国家試験に合格し薬剤師にならないといけないので、達成できているとは言えない。また、これから先薬剤師になっても、病気で苦しむ人を助けるために、日々学習し続けなければならない。

第2ラウンド「私は、大学のここが好き」

- ・先生と生徒の距離が近い
- ・専用の演習室があり、話し合いながら勉強する環境が整っている
- ・患者シミュレーターを使用し、フィジカルアセスメント技術を習得することができる
- ・他学部や他大学との交流が多い

第3ラウンド…「私の夢と進路：将来の姿を描こう」

- ・本当の意味でのチーム医療を行う。薬剤師、医師、看護師、臨床検査技師など様々な職種を含めたカンファレンスを行う場をつくりたい
- ・治験コーディネーター（CRC）として、医療従事者や患者のかけ橋になりたい
- ・地に足をつけて歩みたい。今はその時を楽しみ感じだが、自立した大人になりたい

・病気で苦しむ人の声を聞いて、楽にできるような薬剤師になる。在宅医療の現場などで、バイタルサインなどをとり判断できるようになりたい

<まとめ>

第1ラウンドの薬学部に進学した目的は、入学前の環境が大きく関わっていると考えられる。身内などに医療従事者がいる場合は、家庭でも普段から医療の話聞くことができ、自然と興味を持っているようだ。高校で化学が好きだったから、実際に薬の効果を実感して興味を持った、収入が多い職業だからなど、進学した理由は様々であったが、共通して人の役に立ちたいという意見が多かった。

第2ラウンドでは、大学の好きなどころを聞いた。自然が多く邪魔されるものが何もないので勉強に集中できる、他大学との交流ができるなど大学の立地や環境による意見も出たが、共通して出た意見としては、人と人のつながりが良いというものであった。先生と学生の距離が近い、研究室ごとに一緒に国家試験に向けて勉強できる部屋がある、他学部・他大学との交流が盛んであるといった意見があり、人とのコミュニケーションをとりやすい大学が多いと思った。

第3ラウンドにおいては、進路は病院、薬局、CRC など様々であったが、将来の夢としては現在の薬剤師に欠けている部分をなんとかしたいというものであった。チーム医療がさけられる中、まだまだ薬剤師がチーム医療に関わっているとは言い難い。それぞれの専門性を活かし、チームで患者中心の医療を行う必要があると感じた。また、薬剤師がフィジカルアセスメントを行い、副作用のチェックなどを行い医師へフィードバックできるようになるということも、これからの薬剤師には必要な技能であると思った。

World caféを通して話し合うことで、様々な目的で薬学部へ進学し、異なる大学環境で学んでいるが、共通意見として人とのつながりの大事さや6年制薬剤師としてこれまでと同じではないと思っていることなどを認識することができた。

ⅢC班-2

World Café 私たちの歩み！過去、現在、そして未来

まずはマスターから自己紹介を行い、それぞれのラウンド、そしてそのラウンドごとのテーマに沿って意見交換を行った。各ラウンドの最初には、前のラウンドで他の人の意見で印象に残った内容を簡単に紹介した。

■第1ラウンド

- ・自己紹介
- ・テーマ1について A4 用紙に記入

～テーマ1「私が薬学部に進学した目的と達成状況」～

- ・世界に進出していきたい。貧富の差などをなくしたい。
- ・アフリカなど医療がまだ十分でないところに医療の手を
- ・地域医療に貢献したい
- ・地域、地方への貢献
- ・薬剤師は薬を届ける最前線
- ・薬剤師は患者さんにとっても近い存在、患者の話を最前線で聞ける など

⇒キーワード：「世界」「地域への貢献」「臨床より基礎！」「英語力」

第1ラウンドのテーマの話合いの中で多く出てきた言葉として「世界」「地域への貢献」があった。国内のみにとどまらず、進学当初から世界にまで目を向けている学生が多くみられた。そして、そのために必要なものとして「英語力」が必要であるということ、そしてまずは「臨床より基礎」をしっかり固めなければ、次のステップに進めないのではないかという意見が出た。

⇒達成状況

現時点において、達成できていると言った学生はいなかった。まだまだこれからやらないといけないことが沢山あるということが改めて感じられた。

■第2ラウンド

- ・自己紹介
- ・第1ラウンドで印象に残った内容を簡単に紹介
- ・テーマ2について A4 用紙に記入

～テーマ2「私は、大学のここが好き」～

- ・自然が沢山
- ・先生と学生が仲が良い
- ・学園祭で先生がライブをする。先生、学生一緒に盛り上がる
- ・12月まで研究をする
…研究が多く大変？でも先生とディスカッションができるようになる！ など

⇒キーワード：「先生と学生が仲よし」、「自然」

テーマ2で一番話が進んだ内容が「先生と学生が仲が良い」という点であった。ある大学では学園祭の際に先生がバンドを組み、ライブを行い、生徒と一緒に盛り上がるそうだ。その話を聞いていてその楽しさが伝わってくる内容であった。薬学の勉強はとても難しいし、覚えることも沢山大変なことが多いが、そのようなイベントを通して先生と学生と一緒に楽しむことができる機会があるというのはとてもいいことだと感じた。先生と学生の間壁がなくなれば大学の環境はよりよくなるのではないかと考えた。先生と生徒が交流できる機会が他の大学ではあまりないのではないかと感じるのです。そのような機会を他の大学でも増やしていければより良いのではないかと。

■第3ラウンド

- ・第1、2ラウンドで印象に残った内容を簡単に説明
- ・テーマ3について。A4用紙に将来の自分の姿を絵に描く

～テーマ3「私の夢と進路：将来の姿を描こう」～

- ・地域医療、在宅医療に貢献したい
- ・小児医療に携わりたい
- ・海外進出、世界の貧富の差をなくしていきたい
- ・医師と地域医療の仲介をしたい
- ・色々な職種と関わりたい など

A4用紙に将来の自分の姿を絵に描いた。描き終わったらそれぞれ絵を見せて発表し、他のメンバーはその絵をみて、その人がどんな将来の姿を描いたのか想像しながら話を進めていった。大学に入って6年が経ち、入学当初と比べて目標が変わったという学生もいた。そして、大学生活を送る中で、より目標が具体的になった学生もいた。テーマ3で挙げられた内容をみても、既存のことにとらわれず薬剤師として今後どんなことが求められるのかが重要である。私達の班では絵をみてその人がどんな内容の絵を描いたのかほとんど正解することができた。自分の夢、やりたいことを絵で表現することは難しいと感じたが、その絵を見て他の人に伝えるこ

とができたのはよかったと思う。

《まとめ・感想》

アイスブレイキングも兼ねて、このような形で話を進められたことはとても大きかった。全国各地さまざまな大学から集まって話す機会は今までになかったのでそれぞれ色々な意見を聞くことができとても刺激を受けた学生は多かったのではないかと感じた。またテーマ2ではそれぞれの大学の特徴を知ることができ、色々な大学の話を聞けて面白く感じたし、それぞれの大学の良いところを参考にして新しい校風を作っていくのもありなのではないかと思った。

話合いを通して感じたのは、国内だけでなく世界に目を向けている学生が多いことであった。しっかりとした目標をもちこれから薬剤師としてどうしていきたいか、どうすれば貢献できるのかをじっくり考えている学生ばかりであった。今後はその目標に向かって皆で頑張っていきたい。

IVチーム（1期生）

第一部「私たちの歩み:過去、現在、そして未来」（1）

第一部では、卒業後1年もしくは2年を経過した私たち卒業生の過去、現在、未来を主題に、ワールドカフェ方式にて1期生、2期生の垣根を越えた率直なプレゼンが行われた。

「私が現在の進路を選んだ目的と達成状況」

テーマ1では、各自が現在の進路を選択した理由と、入職・進学時の目標が現在どこまで達成できているかをテーマにプレゼンを行った。

メンバー4名中、病院に就職した卒業生が3名であったが、震災支援に携わるため、学生時代の縁、就職活動中の巡り合わせなど、施設の選択理由は様々であった。

一方、今回のメンバーで唯一進学を選択した卒業生は、薬剤師免許を持った弁護士を目指して法律を学んでいるという。医療ミスや薬害に関わる裁判が増加している社会情勢の中で、薬剤師としての基盤を持った法律家の存在は大きなものになるのではないだろうか。

いずれにしても、1期生、2期生ともに現時点では目標達成までの道のりはまだまだ長いと感じているようだ。我々は6年制薬学部を卒業したとはいえ、社会人としての経験は浅い。今後も目標を見失わずに継続した努力が必要である。

「私の職場のここが好き」

テーマ2では、現在の職場・大学の好きな点についてディスカッションを行った。

「幅広く多くの業務を経験することができる」「研究のチャンスがある」「新人の意見でも積極的に取り入れてもらえる」など、今回テーブル1で意見交換を行った4人は全員が現在の職場・大学に対してポジティブな印象を受けていることがわかった。しかしながら、今後も生涯、現在の施設で働き続けるかとの問いに対しては全員が「おそらくNo」という回答であった。現在の施設では学べないこと学び、経験できないことを経験するため、また更なるスキルアップを目指すためにも、様々な変化は取り入れるべきであり、個々の成長にとっては必要なものだろう。しかし、一か所に留まり、自らの力で周りを変化させることも大きなステップアップに繋がるのではないかと感じた。

「私の夢とキャリアプラン：将来の姿を描こう」

テーマ3では、今後目指す自分の姿を各自が絵に描いて表現した。

未病への取り組み、医療コミュニティーの構築、医師との積極的な意見交換など、各々の目指す将来像は実に様々である。薬剤師の活躍の場の幅広さを再認識すると共に、今後も6年制薬学部卒の薬剤師の社会進出に伴い、今までに無い更なる進化の可能性が秘められているような、希望に溢れたプレゼンであった。

また、あるメンバーが描いた「生活の充実」はメンバーの中でも個性的な意見であった。患者という、云わば他人に対してホスピタリティをもつためには、自分自身の私生活を心身ともに豊かにし、余裕を持つことが必須であるという彼の意見は、その場にいたメンバー誰もが賛同した将来像であった。

ワールドカフェ方式を採用した第一部は、テーマ毎にテーブルマスターを除いたメンバー全員が入れ替わり、更に1期生、2期生が卒業年度にこだわらず、同じ6年生薬学部を卒業した、志を共にする仲間としてざっくばらんな意見交換を行うことができた。それぞれが今所属する施設の中で感じることは様々であり、時にネガティブな部分に囚われてしまう場面もあるだろうが、こうして過去を振り返り、現在を見つめ、未来に夢を馳せることで新たなモチベーションを得るきっかけとなったのではないだろうか。

第一部「私たちの歩み:過去、現在、そして未来」(2)

第一部では、「World cafe」というグループワーク手法を用いて、1期生、2期生が社会人としてそれぞれの立場で仕事をする中、「私たちの歩み!過去、現在、そして未来」について考えた。「World cafe」は、数名でグループ討論を行い、テーマごとにメンバーを入れ替えて行う討論手法である。第一部では、以下3点のテーマについて討論を行った。

【各ラウンドのテーマ】

第1ラウンド:「私が現在の進路を選んだ目的と達成状況」

第2ラウンド:「私の職場のここが好き」

第3ラウンド:「私の夢とキャリアプラン:将来の姿を描こう」

3つのテーマそれぞれメンバーが異なる中での討論であり、まとまったプロダクト作成ではなかった。そのため個々のテーマの詳細と、ラウンドごとに印象的だった内容について報告する。

第1ラウンド:「私が現在の進路を選んだ目的と達成状況」

- ・研究を通して、臨床現場に還元したい。
- ・医療従事者の方をサポートすることで、患者さんに貢献したい。
- ・薬剤師が働きやすい環境の法整備を行いたい。
- ・薬の開発に携わることで、患者さんに新しい薬を届けたい。

病院薬剤師、CRA、博士過程で研究する者、MR、法務研究科で法律を学ぶ者等それぞれの立場で6年制を卒業した一步を歩んでいる。病院、薬局での実習経験から様々な職業について考え選んだケースや、実習での人の縁を感じて今の職業に就いたという意見もあった。特に印象的だ

ったのは、職業が違えど薬剤師としての考えを根底に持ち、患者への貢献、薬剤師の発展に寄与したいという点で今の職業を選択したという点であった。

第2ラウンド：「私の職場のここが好き」

- ・分からない事が、遠慮なく質問できる環境。
- ・何事にも拘っている。
- ・薬剤師という職業にプライドがある。
- ・チーム医療に薬剤師が徐々に参加出来つつある現場を知れている点。
- ・他職種と仲が良い。

希望した進路だけに進んだ人ばかりではないが、個々が今の職場で仕事を楽しみ、日々学んでいるという印象であった。今まで知りえなかった事や自分には出来なかった事が出来るようになり、自身の成長を感じる場面も出て来ていた。その反面、社会に出て気づく理想と現実のギャップを感じるケースもあるという。例えば、病院薬剤師の業務をしている中で、患者さんのために行っていることが診療点数稼ぎに感じる事もあるという。その他にも、副作用報告が誰のための情報収集なのかという疑問が医療者側、企業で働く者の両方から出ていた。

第3ラウンド：「私の夢とキャリアプラン：将来の姿を描こう」

- ・政治家として、薬剤師がやるべき事をやれるような体制、法律の仕組みを整えたい。
- ・薬剤師がどのような仕事を行い、どのような形で国民にプラスに働いているかを伝えるスポークスマンになりたい。
- ・日本での経験を活かし、海外で臨床薬剤師として活躍したい。
- ・研究を通して、**Evidence** を作成し、より良い薬物治療を患者さんに届けたい。
- ・教育に携わり、次世代の薬剤師育成を育てたい。
- ・医療体制の仕組みをより良いものに変えるべく、将来行政に携わりたい。

「薬剤師をより良いものに変えて行きたい」そんな意識が討論では感じた。薬剤師というものを、内的、外的環境をより良く変えて行く事が、しいては患者、国民への貢献に繋がって行くのではないかと議論された。どの職種であろうと「チーム薬剤師」として、それぞれの職業、立場でしか知りえなかった内容を考え、良い点は周りに伝えて行き、改善点についてはどうすれば改善できるのかという点まで考えて行きたい。との話が印象的であった。

まとめ

6年制課程は薬剤師の変化を社会にアピールする、あくまできっかけに過ぎない。個々で出来る事を行い、薬剤師という職業を発信し続けることが重要だと討論で感じた。薬剤師の本来の姿、貢献を発信して行く事で、患者だけでなく、国民へ「薬剤師」という職業をみんなで伝えて行きたい。また医療関係者同士の職域争いにならないように、お互いが必要とされる事に対し補完し合い、あくまで患者さん、国民のためになることを考えていきたいと言った主旨の話も出てい

た。1、2期生、卒業年度は違えど同じ想いで仕事をしている事を知り、お互いのモチベーションアップにも繋がったと感じます。このような機会で設けて頂いた日本薬学会の皆様へ感謝致します。討論し合った熱い気持ちを胸に、これからも薬剤師の発展に寄与できるように精進して参りたいと思います。

IVチーム（2期生）

第一部「私たちの歩み:過去、現在、そして未来」（1）

World café

テーブル③ テーブルマスター：吉川望美(二期生 日本薬科大学)

第1ラウンド「私が現在の進路を選んだ目的と達成状況」

【旅人の意見の要旨】

- ・棚ぼた的に、気づけばこの進路に進んでいた
- ・病院薬剤師の仕事内容に興味があった
- ・研究とドラッグストアをつなげる仕事をしなかったから
- ・学生時代に学会に参加して、その分野を深めていきたいと思った

【会話の内容】

研究職、病院、ドラッグストアと異なる業種の4人が集まった。現在の進路に進んだ目的をお互いに話し合った結果、達成状況よりも先に、その進路の現状や問題点について議論が進行していた。また、お互いの進路は違えども「薬剤師として社会に貢献する」という最終目標は同じであり、このWSを含むすべての人との「巡りあわせに感謝」という意見で一致した。

第2ラウンド「私の職場のここが好き」

【旅人の意見の要旨】

- ・多職種が集まっていること
- ・色々な意味で「自由」であること
- ・各部門にスペシャリストが居ること
- ・目的意識を持った人ばかりが集まっていること

【会話の内容】

病院、ドラッグストア、CRO、大学院生の4人が集まった。ドラッグストアや病院においては同じ環境に多職種がおり、相互の連携やチームで活動できることが魅力のひとつとして挙げられた。しかし、同時に他職種との専門性の違いやコミュニケーション不足、壁を感じるという意見もでた。大学院は学部とは異なり、その専攻を選んだ目的意識の強い人が集まっているため周囲から刺激されるということであった。また、CROは仕事に関してノルマが設けられているわけではなく一言で表現すると自由であり、自由の裏にある責任の重さを実感しているということであった。

第3ラウンド「私の夢とキャリアプラン：将来の姿を描こう」

【旅人の意見の要旨】

- ・医療経済や経営も分かる薬剤師
- ・臨床から教育へ
- ・TDM 解析、感染制御など専門性を生かした臨床業務

【会話の内容】

このラウンドではお互いの将来像を絵で表現し、夢を語り合うことができた。なぜそのような将来像を描いているのかというきっかけについて話が及ぶと、きっかけを与えてくれた恩師や出来事存在がそれぞれにあるということがわかった。